

婦人關係資料第二八號（一九五一年五月）

日本婦人へのメッセーヂ

——第三回婦人週間を祝つて——

勞働省婦人少年局

はしがき

日本の婦人がはじめて国会議員の選挙に参加した。昭和廿一年四月十日を記念して、昭和廿四年以来毎年四月十日から一週間を「婦人週間」とし、婦人の地位をたがめる運動が労働省の主唱によつて全国的に行われて来ましたが、婦人の市民性の発露を目標として本年の第三回婦人週間に際しては、海外国から数多くの祝賀のメソージが送られて来ました。それらは、アジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸の十三の国々の著名な個人や団体からのもので、世通あまりを数え、連合軍總司令部又は各回の駐日連絡機関を通して、或いは直接労働省婦人少年局長あてに、通報又は郵送でとどけられました。

日本婦人の向上が、二の國の民主主義と世界の平和を推進する力として、多くの國々の大きな関心と期待を集めていることを示すこれらのメソージは、日本婦人にとつて大きな刺激となるばかりでなく、玄く日本社会一般の國際的関心の促進に役立つものと考えられますので、婦人週向中には当局が國立国会図書館で開催した「婦人資料展示会」の会場に特に一隅を設けて陳列して參觀者の決意に呈しました。かゝる更に玄く又詳細に情報を提供するため、ここにその全文（原文及び和訳）を集録しました。

なお当局では、婦人週向終了後、局長名を以てメソージに対する返礼文に、婦人週向実施の概況及び日本婦人の現状を紹介する資料をよえて、各國に送りましたが、その返礼文と資料の一部もここにのせました。婦人の地位及び國際理解に関心をもちあつちの關係各位に御参考になれば幸いです。

一九五一年五月

労働省婦人少年局長

はしがき

一 メッセージ

1. ブラジル

ブラジル婦人文学協会

2. カナダ

A R メンジース氏 在日カナダ連絡使節団

ケイリン・ワイルソン文庫 上院議員

カナダ婦人連合協会

カナダ全国婦人協議会

3. 中 国

蔣介石夫人

4. デンマーク

デンマーク全国婦人協議会

11. スウェーデン

ノルウェイ全国婦人協議会

国際婦人同盟

12. タ イ

国立タイ文化協会婦人文化研究所

13. アメリカ合衆国

チャールス・E. ベアト夫人

フランクリン・D. ルーズベルト夫人

エリザベス・ヴァイニング夫人

A・F・L

米国大学婦人協会

米国農村協会婦人部

キャリー・チャップマン・キャント財団

5. 英 国

エデイス・サマスキル文庫 国民保健大臣

6. インド

アムリント・カウル文庫 保健大臣

全インド婦人会談

インド婦人全国協議会

7. イタリア

イタリア全国婦人協議会

8. 韓 国

韓国婦人連合会

9. オランダ

ファン・アッシュ・ファン・ウィイク文庫 世界YWCA

10. ノルウェイ

C・I・O

婦人クラブ連合会

婦人労働者同盟

全米職業婦人連合会

アメリカ独立婦人協会

世界農村婦人協会米国支部

民主党婦人クラブ

共和党婦人クラブ

二 メッセージへの返礼文

三 「日本婦人の現状」

四 参考文献目録

五 メッセージ原文

日本婦人へのメッセーヂ

一、メッセーヂ

配列は英語による国名のアルファベット順により一つの国から数通ある時は、個人を先に、団体をおとに、それぞれ英語名のアルファベット順によつています。

1. ブラジル

ブラジル婦人文学協会より

「日本の姉妹へ」
日本の婦人運動に対し、私たちブラジルの婦人は、祝辞、献身、好意、特に日本のみなさんを親愛なる友と呼んで、心からの友情を送ります。
世界中の私たち婦人の一人一人が、同じ心、同じ涙、同じ微笑、永久に姉妹となるための同じ苦痛を排つたならば、それは精神の最高の愛となり、私たちをへだてる距離、人種のちがひ、言葉のちがひは向壁にならぬでしょう。
あなたの国、あなたの国の人々、明日の希望のにないてである子供さんの福祉を、心から祈ります。

日本婦人を

許にたくしてうたえる

むすめ

あの小さな日本のむすめが歩いてゐるのは、
蝶々が飛んでゐるようである。
もし、のそむなら、サロンの家具の上に
置物の様に置くことができる。
考えるときは、上履の漆塗の戸子に見入り、
思索は、日本の小さなクローバの香りのように
ひろかつてゆく。
銀色の絹の着物の袖の中から
雪のように白い野の百合を
ほしがるように、
小春色の小さな子をのぼす
他國の二羽の鳥が
休むためにそこに止り
衆いそうに羽根を振上げて
その絹の巢から飛び立つた。
誰が知つてゐるだろうか。

上院議員ケイリン・ウイルソン文書より

(電報)

「カナダ婦人は日本婦人を祝し、婦人の地位向上に多大の寄与を行われた貴下に敬意を表する。」

上院議員ケイリン・ウイルソン

カナダ婦人連合協会より

「山川 様」

日本の婦人が過去数年間の業績をふりかえり、未来へのより大きな前進の計画をたてられる婦人運動に当りまして、ここに貴下を通じて日本の皆様へ敬祝の意をお送りすることを喜びとするものであります。

カナダ全国婦人協議会に代り、貴下が社会、教育、経済、政治、法律の各分野で婦人解放のためになさいましたすばらしい御仕事を祝し、それが日本の新憲法第十四条「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的關係において、差別されない」の實現を招来することを祈ります。それこそ、貴下の御努力に眞に値するゴールでありましょう。又、私達は日

2. カナダ

駐日カナダ公使館 A.R.メンジース氏より

「山川 様」

新憲法の発布以来、その権利を最大限に活用して公共のために精かしい活動を行われた日本婦人に対し、貴下を通じて祝詞を述べさせていただきますと存じます。

駐日カナダ公使館主席

A. R. メンジース

(3) 本の婦人がその目標の達成に近まれつゝあることを喜びたいします。

日本では過去十年間に、産業における婦人の地位が向上し、又婦人達が幾世代も生き、勿いてまた水準から脱出するというまことにめざましい変化がおきたことを私たちは知っています。婦人の指導者達が長い間めざして来た目標に向つて、今や日本の婦人が共に手を携えて前進している有様を貴下はさつと満足にお思いでしょう。

私達の協会はカナダに住む日本婦人のどんな人でも喜んで友誼の手を差伸べ、その方々と共に両国の間に理解の橋を渡したいと思ひます。友人として共に働くことによつて、私達は飢えと、怒涛と圧制から解放された世界を築き、国際的平和への道をひらくことができるであらうでしょう。

ふたたびおめでと。皆様の御骨折がわたくしにやうに……。

会長 E. E. モーソン

カナダ全国婦人協議会より(電報)

「カナダ全国婦人協議会は、日本婦人が公共の向眼

にいよ／＼関心をもち、参加されつゝあることを祝す。

3. 中 国

蔣介石夫人より(電報)

「自由中国の婦人は日本婦人週間をお祝い申し上げます。昔から幾多の婦人から人間的の向上のために注目すべき寄与をしてきました。しかし普遍的、永続的進歩は組織を通しての協力的努力によつてのみ可能となります。自由中国の婦人はこの基本的真理を認識し、人間の自由と尊厳を目標として婦人を動員するために、中国婦人反侵略同盟を結成いたしました。日本の姉妹も共産主義者の侵略に対抗するために同様の組織をつくり、活動においても、精神においても私達と一致されることを希望いたします。

蔣宋美齡

4. デンマーク

デンマーク全国婦人協議会より(電報)

「婦人週間を祝し、平和と同幸福を祝す。」

5. 英 国

国民保険大臣サマスキル文吏より

「英国の婦人は日本の姉妹の業績を深い同情と讚美の目をもちて見守つております。ここに英国より、皆様の婦人週間にお祝の言葉を送ることを喜びとするものです。

私達は党派性を超え、同情と讚美をもつて日本婦人の市民性獲得への歩みを見守つて来ました。皆様が日本復興と繁栄に不可欠の役割をになつていられること、そしてそれを血脈に果されるであらうことを信じ、ここに御挨拶を送ります。

工デイス・サマスキル

6. インド

保健大臣アムリット カウル文吏より

「日本婦人週間に際し、インド国会婦人議員を代表して、日本の婦人の皆様に御挨拶を申し上げます。

(4) 私達の住んでいるこの世界は今世大戦によつて

引起された苦しみからまだ立ち直つてはおられません。しかも朝鮮における戦犯はまたもや未来に暗影を投げかけています。けれども私達は、人類最大の敵であり、常に戦争の前ぶれである恐怖と猜疑とを、私達婦人の莫大と愛の力で除去できることを信じ、今こそ世界中の婦人が力を合せて戦争に反対しなければならぬと考えるのであります。何故なら戦争は不正を正す解決法ではありません。暴力は必ずより大きな暴力を呼び起すにすぎないからです。平和による勝利は戦争による勝利よりも常に偉大です。しかし愛のないところに平和はありません。先天的本能で生命の保護者である婦人の責任はまさに重大というべきで、婦人はこの責任を回避することはないであらうでしょう。

私達は人間精神の完全な自由、全人類の政治的自由、両性の平等、及び万人に対する機会均等を擁護するものです。日本の姉妹に御挨拶を送るにあたり、私達が皆様の福祉と、皆様の国の福祉とに重大な関心をよせていることをお知らせしたいと思ひます。私達は皆様の新日本建設の努力が成功されることを祈り、この惨める世界に平和と幸福と光明をもたらすためのすべての計画に援助と協力を誓うものであります。

インド国会婦人議員を代表して

保健大臣 アムリット・カウル

全インド婦人会議より

「一國の進歩は大きくかつて婦人の手中にあることを信ずる者として、日本の婦人通商に心からのお喜びを申し上げます。」

この婦人通商は日本婦人の活動と向上と発展をより弾力的に推進するための機会となることでありましよう。

皆様が直接御自身に關係ある問題だけに関心を限られず、古い慣習の枷から解放されるための努力を続けられるかたわう、社会正義、世界平和、國際親善の重大問題によりなぐ手を伸されたことは、世界の婦人に対するはなむけであります。私達は日本の婦人の皆様がこの三つの理想を導び、その実現のために独自の貢獻をされることを信じております。

最近ニューヨークのアジア競技大会に参加された日本の婦人選手が、幾つかの種目で大成功をおさめられたことは、皆々様の進歩が如何に大いかに示すと共に、皆々様が世界の阿蘭で今後指導的な役割を果されるということをご告げているといえましよう。

こゝに私達の友愛と好意をお送りします。私達が婦人通商の行事を大きな関心を以て見守っていること

は云うまでもありません。

会長 ハナ セン

インド婦人全國協議会より

「日本婦人通商に際し、インド婦人全國協議会を代表して日本の姉妹の皆様に心からお喜びを申し上げます。その御成功を祝ります。」

僅か五十年の短期間の中に日本のなしとげられた業績を世界は感嘆の目を以て見守つて参りました。皆様が古い封建時代の枷をふり捨て、現代世界の指導的地位にまで進まれました。しかし今日世界には東と西の間に暗雲がたゞよつております。

今次世界大戦は人間社会を根柢から揺り動かし、既成の生活と思考の習慣は手荒に衝撃を受けました。戦後既に六年になりますが、まだ平和や安定した生活には遙かに遠いものがあります。もう武器による勝利は決して平和を保証しないということを悟るべき時です。今日世界文明は世路の中であつくり直されつゝあり、社会的、経済的、道德的価値もまた変革を受けつゝあります。

私達はこの過渡期を自覚し、私達自らの心の中に愛

8. 韓国

韓国婦人連合会より

と理解にもとづく恒久平和を求めねばなりません。世界は精神的価値の再認識を求めてやまないのです。インドと日本は共に佛陀の教の後継者であることを誇る國であり、それ故私達は同じようなもの、見方、考え方をするのだと思ひます。私達は日本の姉妹が平和と善意と近隣愛の中心としての役割を果たして下さることを信じております。

訓練と組織力にすぐれた日本の皆様が平和と善意をめぐして、國內でも海外でも大きな働きをされる日は近いことではしよう。

日出づる國の諸姉に敬意を表して

会長 サララデヴィ・サラバイ

イタリア

イタリア全國婦人協議会

「二ナ・ルフィーニ文庫より」

「日本の婦人通商にあたり、イタリア全國婦人協議会を代表して心からのお喜びを申し上げます。日本イタリア兩國婦人の間に收斂多き協力が行われることを希望いたします。」

「意義ある婦人通商にあたり、日本の民主化、再建に努めてまいります。日本婦人の皆様に、韓国婦人に代つて心からのお祝いを申し上げます。光榮といたします。過去半世紀における日本と韓国との關係があまり香ばしいものでなかつたことは否定できません。けれども今日では日本も韓国も共通の目標をもつて同じ道を歩んでおります。それはやがて愉快な過去は忘れ去つて、將來の協力をめざすべき時であると思ひます。時代は自由を愛する他の諸國と同様に私達兩國に對しても、平和と自由擁護のために民主主義を達成するという大きな神聖な事業を課しているのです。そして私達は今、近代史上最大の犠牲を払いつゝ、この事業のために苦闘しております。」

日本の婦人が社会的地位向上のためにつくされ、諸分野において次第に重い役割を果たされるようになつたことは甚だしいことです。今、急速に建てられつゝある民主主義の一大建築のために日本の婦人が一礎石となられることは私達の衷心よりの願いであります。

(7) そして日本を世界の民主国家の美しいメンバーとするため、皆様がゆめまじい働きをなさいますことを私は信じております。

韓国婦人連合会

10. ノルウェイ

ノルウェイ全国婦人協議会より

「ノルウェイ全国婦人協議会は日本婦人週間を祝し日本婦人のなさった重要なお仕事は今後も引続き成功なさるよう祈ります。

会長 クローディア・オルセン

9. オランダ

世界YWCA

ファンアッシュファンウィイク女史より

「一九四七年十一月に世界YWCA代表の一員として日本を訪問したことを楽しく思い出しつつ、日本婦人週間にオランダから御あいさつを送ります。

貴下の御努力により、今後ますます多くの日本婦人が家庭生活、社会生活を通じて、精神的価値と高い正義と奉仕への忠誠を基礎とする日本の建設に参加なさいますよう祈ります。国々が相互に理解しあい扶助しあう平和世界の建設のために皆様の捧げられる寄与は次第に意義あるものとなりましょう。

C. M. ファンアッシュファンウィイク

11. スウェーデン

国際婦人同盟より (電報)

「国際婦人同盟は貴下の偉大な使命の御成功を祈る。会長 ハナリド」

12. イタリヤ

国立タイ文化協会婦人文化研究所より (電報)

フランクリン D. ルーズベルト夫人より

「日本婦人週間に際し、民主的制度に従って参政权を与えられてからこの方、日本の婦人のなさった御仕事を心から祝します。そして民主国家日本のためになさったそのようなお仕事は、婦人の進出と日本の繁栄に大きな寄与をもたらすことを希望いたします。」

「日本の婦人参政权の五回記念日に際し、私は、日本において婦人達の果している役割の御成功を祈り御祝いを申し上げます。」

13. アメリカ合衆国

チャールズ E. ベアド夫人より

「三年以上の研究を通して日本文化の型を形成した力としての日本婦人について学んだ私はあなた方が現在、勇氣とねばり強さをもって民主主義とより親んでいるのを見て決して驚きません。それはあなた方に与つてお守りのものであり大変上手にやつていると思います。私はあなた方を誇りに思っています。」

更に、最近日本に役人や見物人として滞在した多くの有名なアメリカ人もあなた方の印象について誇りをもちて新聞に発表しています。

民主主義を実行するのには特別に知性と勇氣が必要で、決して失望しないようにして下さい。」

エリザベス・ヴァイニング夫人より

「この度の日本のオ五回婦人参政权記念日を迎えるにあつて私は過去をふりかえり、将来をなかめてみたいとおもいます。」

日本婦人は五年間にわたる機会と業績とを遂げて参政权の責任を果すだけの能力と、いそがしい生活の中に新しい政治的な重荷を託んで買おうとする心構えを世界に示しました。この五年間のうちの四年間を私はあなた方の間で生活しましたので、あなた方が戦後の諸条件や経済的、家庭的な困難、及び国民生活における婦人の役割に關する考え方の変化による心理的な要因などのために、苦しまれたことをよく知っています。それで私はあなた方の業績に対して、賞讃すると同時にそれが購われた代償についての同情をおしひませ

過去について云うならば、私たちは戦前に婦人参加の獲得の爲に奮闘したあの勇氣と才に惹かれた婦人達に讃辭を捧げなくてはなりません。彼等らの忍耐強く、知性に富んだ努力は、その当時耳にみえては報いられませんでした。後日あなた方が前進し、確信と目的をもつて好結果を獲得するための道を、ひらいてくれたのです。

又、將來をおもうならば、私達の目の前にはますます大きな責任と重い任務を伴う圧迫と危険の時期が近づいていきます。私たちは毎年成年に達する多くの少女達に投票の義務を奨励し積極的に行なうこと、候補者の経歴や性格を正しく見定めること、論争果となつて政治問題を研究すること、又独立心と知性をもつて投票することをよく教えなければなりません。ジョン・P・カランが一七九〇年にこう云つています。

「熱情な人々は自分の権利をいざ知らに能動的に人々の飢餓に供することが多い。神は永遠の警戒といふことを條件にして人々に自由を与えたのである。」

婦人の影響が弱かつた社会は平和な社会であつた。人類学者は云つています。世界の自由な婦人達は今こそ一歩に立ち上り、そしてすべての子供が心身ともに自由に、幸福に生長し、又すべての国々が全人類

周年記念に際し、米國大学婦人協会を代表して日本の皆様にお挨拶申し上げることは私の非常な光栄とするところであります。

これにより、私達は今までより広い規模に立つて私達の関心を表明する機会を得たわけです。今後日本の婦人とますます大きなつながりを持ち、それによつて私達の生活が高まり豊かになることを信ずるとともに、何らかの方法で皆様と密接な交際にし、できるだけの力をそえさせていたきたいと思ひます。」

米國農村協会婦人部長セーヤー文吏より

「婦人週間五周年記念にあたり、米國農村協会婦人部を代表して、日本の婦人にお祝いの言葉を申し上げます。」

キャリー・チャプマン・キヤント財団より

「キャリー・チャプマン・キヤント財団理事は、新しく参政権を獲得し、それを確固しく建設的に行使された日本の姉妹に、心から五周年のお慶びを申し上げます。」

のための社会的、経済的正義の創造に協力するような平和な世界を実現するために力と決意を合せましょう。」

AFI会長ウィリアム・グリーン氏より

「日本婦人に婦選五周年に対するアメリカ総同盟の祝意をお伝え下さい。自由と民主主義の爲めにつくすすべての者は、日本婦人が新に与えられた権利に於ける有様を称えております。それは日本や他國に同じく持つ者のすべてを、非常に心強くするものです。」

米國大学婦人協会マ長フラグドン文吏より

「貴下より日本婦人の皆様へ私達の即挨拶をお伝え下さいませ。又一九四五年以来提起された新しいいろいろな國內問題や世界の問題に日本の婦人が対処された方法に対して私達が深い関心と尊敬を抱つていふことをお伝え下さいませ。」

私達は日本大学婦人協会の方々、及び公務でワシントンを訪問された日本婦人の方々とのおつきあひを心から嬉しく思つておりました。そこで今日日本婦選五

CIO会長フィリップ・ムレイ氏より

「日本婦人の皆様」

婦人週間への私の心からの祝意をお受け下さい。家裏におけるおだやかな優しい精神を通して、婦人が与える偉大な影響は何時の世にも決してやむところがないでしょうが、私達の近代社会にとつては、人間的努力のあらゆる分野における婦人の寄与こそ、特に賞讃され奨励されるべきであります。

婦人週間の催しに、日本の労働組合の婦人が参加されるということは私の最も光栄とするところであります。百万人以上の日本婦人組合員は、戦前にさいまする、おびやかされてゐるこの世界に、平和と自由と繁栄をもたらす大きな機会を握つておられます。

私は米國衣服労働組合の副会長で、目下日本に滞在しておられるグランド・デイス・ディッカソン女史に、もし機会が得れば、婦人週間中に、御自身の口から私の好意を日本の方々に伝えていただくようにお願いいたします。

どうぞ一九五一年の婦人週間は、広大な分野の活動を開始し、日本のすべての民主制國体を鼓舞し、輝かしい年の年暮となりますように……」

婦人クラブ總連合会長バウトン女史より

「婦人クラブ總連合より日本婦人の皆様へ御挨拶を申し上げます。皆様が参政权の行使や、市民生活、政治生活への活発な参加によつて、日本の進歩にすばらしい貢献をなさいましたことを私達は誇りに思い、皆様を自由と平和のための最も力強い味方と敬愛しております。讃美と尊敬をもつて……」

婦人有権者同盟会長リー女史より

「この記憶すべき記念日にあたり、米國婦人有権者同盟は日本婦人の皆様に御挨拶を送ります。

五年の苦しい年月の間に、皆様は日本の政治を豊かにし日本民主化の過程に大きな寄与をなさいました。今や皆様の政治への参加は確固たるものとなり、今後ともより多くの婦人が政治的に活発になるにつれて拡大されて行くことでしょう。婦人有権者同盟の会長として、ひきつづき皆様の御成功を祈ります。」

全米職業婦人連合会長ヒューズ女史より

「十数万五十人の職業婦人により、合衆國、ハワイ及びアラスカにわたる二十八箇の地域にクラブを組織する全米職業婦人連合は、日本婦人の皆様に、婦選五周年記念のお祝いを申し上げます。

私達の同盟は、世界の二十ヶ國にクラブを有する國際職業婦人連合会の一メンバーであり、婦人の地位の向上と、各國職業婦人間の理解をふかめるために組織されております。新憲法下になされた選挙権、その他の権利の行使において、皆様の示されたすばらしい進歩は非常な満足の原因で見守られております。日本に民主的理想の発達したことにについては、日本の婦人が社会同盟に参加されたことが、主要な要因であつたと私達は考えております。婦選五周年の記念行事に私達の好意をお送りし、婦人の地位向上のための御努力がますます成功をおさめられることを祈ります。」

アメリカ独立婦人協会会長パントン女史より

「アメリカ独立婦人協会は、四月十日より十六日の婦人週間に際し、日本の婦人に御挨拶を送ります。

共和党婦人クラブ会長キャンベル女史より

「日本婦選五周年に対する米國共和党婦人クラブの祝詞を日本の適當な方に御送願いたします。好意のメッセージを送る機会をお与え下さいます。ありがとうございます。」

婦人の行為というものは長年の間には國家的薫陶になり得るものですし、又事実そうなつています。私は何人として、又アメリカ独立婦人協会を代表して、皆様の新しい活動分野を祝します。」

世界農村婦人協会米國支部

委員長アパソン女史より

「過去五ヶ年間の御業績を祝し、未來の御成功を祈ります。」

民主党婦人クラブ会長モリソン女史より

「投票の権利と義務に熱意を以て応じられ、婦人週間に當つては、自由愛郷國家建設につとめる市民としての名譽を受けていられる日本の全女性に対し、民主党婦人クラブを代表して御挨拶申し上げます。

この五周年記念日が、投票の権利義務を全うしようという皆様の決意に彩られ、日本が何時定む眞の民主國家として存続しますように……」

(5) ニメッセージへの返礼文

日本の全婦人、並びに勞働省婦人少年局長、私達の婦人通商に対する皆様の御好意に溢れた御挨拶を心から感謝いたします。ここに日本の婦人に代りまして、衷心より深く感謝の意を表しますことは、私の非常な快びとするところであります。同封致しました資料により、婦人通商プログラムの模様と、あわせて婦人参政権五周年記念をゆえました日本婦人の現下の地位とを、いささかなりとも御紹介申し上げたいと存じます。

当局は、プログラムの一部として、明治維新（一八六七年）以降の各界における日本婦人の進歩を示す展示会を、国立国会図書館で催しました。貴下のメッセーじも、他の国々からの数十のメッセーじと共に、会場の特に設けた一隅に陳列いたしました。

展示会は非常に反響を呼び、会場は毎日二十人余の參觀者で賑いました。その中には国会議員、著名の學者、作家、批評家、官吏及び職務上の或は個人としての外國の方々も含まれております。

皆様にも興味がおありかと思われます当局出版の婦人通商に関する資料を同封いたしました。もし今

貴国と私達の國で資料の交換を行い、外國の婦人の進歩や婦人問題に接することが出来ますならば幸いです。

メッセーじはくれぐれもありがとうございました。貴國の婦人の方々に私達の深い尊敬をお送りいたします。

一九五一年五月十二日

勞働省婦人少年局長 山川 菊栄

三 日本婦人の現状（概説）

一九五一年四月三十日

日本の婦人は三週向前の四月十日から十六日までの一週間、婦人参政権の才五周年を祝いました。この婦人通商中、全國のいろいろな団体や機關は勞働省婦人少年局長の主催によつて、市民性の問題を検討しました。そして婦人が身近かの問題を善処することから出発して地域社会の何々の家庭を、次には地域社会そのものを、次には果を、國を、そして世界をよりよくして行くことができることを示そうとしました。行事ははなものでなく、比較的教育のない婦人や、忙しく

婦人の関心を促すことであつたわけです。

婦人少年局長のプログラムとしては市民意識の意味を検討し、市民活動を促進するための具体案を研究するための中央婦人問題会議を開催しました。この二日にわたる會議には日本のすぐれた學者、批評家及び勞働教育、農村界各界の指導者が参加しましたが、會議の結果は全國に伝達されるはずで、局はその他にも次のような行事を行いました。

一、国立国会図書館における展示会。

一九世紀後半以来の日本婦人の歴史を扱つたもので、今迄婦人所有品として世に知られなかつたり、或は忘れられていた貴重な文獻を一箇所に集めることに成功しました。婦人団体、学校その他諸々の社会の団体招待されました。

二、首都における勤勞婦人の大会。

この大会ではアメリカCIOの役員の方の「勤勞婦人の市民的責任」についての講演もありました。

三、ポスター、リーフレット、パンフレット等の啓蒙資料を発行し、全國に流して、地方におけるプログラムの助けとしました。

又、官庁主催のプログラムのほかに、各団体、新聞、ラヂオその他あらゆる方法で多様なプログラムを展開しました。

以上は婦人の進歩を促進するための市民教育プログラムの一例に過ぎません。次にのべる婦人の各方面における進出は、これらの市民教育活動に資する所が多いのです。

日本婦人が選挙権を得てから総選挙が三度行われましたがそれを通して合計六十六名の婦人が国会に送られました。その中二十四名、即ち衆議院に十二名、参議院に十二名が現在議員をもっており、これは総議員数の三・四パーセントに当ります。又これらの選挙における投票率は、男子の七十一パーセントに対し、婦人は六十四パーセントとなっています。

このように婦人が有権者として活発な動きを示しているのは、日本の女子が一八七七年から初等教育が、一九二一年から中等教育が許されてきたことが大きな要因といえます。男子とは全く異なる学習過程を辿つてはありましたが、婦人が教育より先に参政権を得た国々の場合のように文盲という問題は日本婦人の場合はありませんでした。

たとえ不適当なものとはいへ、このような基本教育が女子に対して行われていたことは、明治以来西政との接触にあつた日本の自由主義者の男女が、男女の平等こそ民主主義に不可欠だという確信を抱いてい

たことのおかげです。しかし少数インテリのこの考えは一般の受入れるところとなりず、婦人参政権獲得運動は、一九三一年に軍部が勢力を握るに及び敗れ去つたのです。

それ以後にも、一部の婦人は強い伝統的偏見にも拘らず、高等教育を受けたり、専門の職業につくことに成功しました。又多くの婦人殊に若い女子が、戦時中工場や農業や家において男子の地位にとつてかわり有能な市民としての自信や、或程度の責任感をも身につけました。そしてその新しい地位を戦後ももちつづけ推進しようとするのでした。

このように日本の婦人は参政権が新憲法によつて許される以前にすでに十分受入れ態勢を持っていたのです。又、敗戦のショックを通して変革を待ちのぞんでいた日本人一般も婦人参政権を熱烈に歓迎しました。一九四六年に発布された新憲法に伴つて行われた種々の立憲的改訂に對しても、日本国民は同様な反応を示しました。新憲法は基本的人権を保障し、両性の平等を法的に確立しました。それらを実現するための法律には次のようなものが含まれています。

一、新民法 婦人に完全な民権、即ち結婚における選択の自由、男子と平等の財産権や親権を保障しています。

二、教育基本法、義務教育を六年から九年に延長し、中学校、高等学校及び大学における女子の機会を与えています。

三、労働基準法、女子労働者の平等の権利を規定し、同一労働同一賃金の原則を確立し、その上女子に対しては出産休暇、生理休暇、育児時間、産後有害作業や深夜業の制限等の保護規定を設けています。又女子労働者の過半数を使用する繊維産業において賃金または賃制労働の要因となつていた奴隷的賃金寄宿舎の自治制度を規定しています。

勿く婦人の数は農業を除いて現在三百五十万で、戦時の女子雇傭数とは等しいものです。戦後労働運動の急速な発達により、これらの婦人の半数以上は組合に入っており、一九四八年のピークにおいては数万名が役員に選ばれています。実業界、サーヴィス機関、行政機関に勿く婦人の数も之に応じて増加し、要職を占める婦人も相当あります。

行政的改訂も立憲的改訂にもなつて行われてきました。一九四七年九月には新設労働省の中に婦人少年局が設置されました。婦人少年局は婦人に關する一切の肉親や活動を調整するところで、勿く婦人や年少者、家庭の主婦、農村婦人及び労働者の家族に關する調査

研究を行い、啓蒙教育計画を実施します。局長始め大部分の職員は婦人です。

又、新しい権利と責任に對する農村婦人の自覚を喚起し、日本農家の原始的形態を改善するという大目標に処するため、一九四八年十一月には農林省の中に生活改善課 (Home Demonstration section) が設けられました。そしてこの事業を担当するために約七百人の出張員が全国にわいています。課長は家政学と教育学を學んだ婦人です。

文部省も、婦人の市民教育を推進するための特別の係を行政機構の中に設けました。地方の教育委員会も殆どすべて、同様の任務を持つ同様の係を置いています。又、全国二百八十七名の教育委員中三十五名は婦人です。

民主主義を受入れようとする日本婦人の心構えと熱意とは、婦人が組織しつゝある団体によつて最もよく証明されます。これらの婦人は大抵、前に一度婦人団体に入つた経験を持っています。即ち政府が支配していた全国戦時団体、大日本婦人会の会員だつたわけですが、この団体は戦後とともに解体し、婦人連合は講習会の回を重ねながら、議事手帳や、各々の団体で独自のプログラムを進める技術を手傳うとしました。現在六百万人許りの婦人が約一万の団体に加入して

ありますが、これらの団体は大部分郡あるいは県単位に組織された地域団体です。例外的なものとして、専制的な人々の特定の関心に基く全県的、あるいは地方的団体もいくつかあります。意見を起して婦人の政治教育を目標とする団体や、大学卒業婦人の団体や、食料の価格や賃金に関心を持つ主婦の連合会などはこの中に含まれます。

前述婦人通商プログラムにも挙げましたように、新憲法下における婦人の新しい責任に關する啓蒙計画はこのようないろいろな団体によつて年間を通じて推進されているのです。

暗い面に目を移すと、先ず地方自治を確立するためには、活な努力が求められているにもかゝらず、文化、経済、産業、教育の各分野において今なお伝統的な中央集権が根深い影響を残しています。農村地域カリーディングは目に見えて衰弱で、婦人は口会では議員の三・四パーセントを占めています。都道府県議會では僅か〇・四パーセントを占めているにすぎません。

この国でもそうですが、日本でも人口の五十パーセントを占める農民は新思想の受入れに遅々たるものがあります。農地改革は地主と小作人の封建的関係を

切り崩しはしましたが、大きな人口に対する狭い土地の問題を解決するには至らず、約四十パーセントの農民は一エーカー乃至それ以下の農地を耕作しているような状態です。その結果、農民達はともすれば法律に反して子供を売買する風習に赴こうとするのです。一九四九年に、労働省は九百二十九件の例をとりえましたが、その中七百十二件は女の子でした。これらの幼穉犠牲者は農村へつれて行かれた場合には大抵農耕者や召使として長期の前哨奉公をし、都会地へつれて行かれた場合には、しばしば売春の別名である文裕として働いています。

未だ機械化の行われない他の国々と同様、日本の農業は家族成員の筋肉労働に頼っています。このことは古い家族制度の基盤であり、同時にチープ・レーバーの源泉である大家族制の維持を助長しています。

一九四九年から五〇年の一年間に労働組合員の数が減少し、組合の努力は幾分弱まり、労働者の間に現在の全体的社会的諸条件の下では組合に入つていても何も得るところがないという気持ちが起つて来ました。最初の組合員数増期に、婦人が自己の行動の意味をよく分らずに加入したということも事実でありました。ともあれこれらの婦人が近代的労働者として成長する

四、發送資料目録

婦人通商マスター

更新簡

リーフレット

「社会のためにやくだつ婦人となりましょう」

パンフレット

「だからわたしたちは婦人団体をつくりました」

「市民意識ハンドブック」

婦人関係資料集綴英文版

ためには、継続的な教育計画、法律の真正な実施、前件條件の十分な監督等が必要で、婦人労働者の傾向と一致するものとして大世帯の婦人団体があります。これは会員数が多きに多いことのために反つて少数リーダーが全てを牛耳つてしまふことになりやすいのです。そういう傾向に対して若い婦人層が強い抵抗を試みていますが、ここでも民主主義を国会般に浸透させる為には絶えざる教育が必要と見えます。

日本の婦人は自分たちの慢んでいりういり口問題に大多数の国に共通したものであることを認めています。そして、本に書かれた法律は多くの者にとつてまだ夢であることを知っています。

MESSAGES FROM ABROAD FOR THE THIRD WOMEN'S WEEK

Contents

I. Messages

1. BRAZIL

Academia Brasileira Feminina de Letras	1
---	---

2. CANADA

Mr. A.R. Menzies, Canadian Mission . . .	2
Mrs. Cairine Wilson, Senator	3
Federated Women's Institutes of Canada .	3
The National Council of Women of Canada.	4

3. CHINA

Mrs. Mayling Soong Chiang.	4
------------------------------------	---

4. DENMARK

The Danish National Council of Women . .	5
--	---

5. ENGLAND

Rt. Hon. Dr. Edith Summerskill, M.P.; Minister of National Insurance . .	5
---	---

6. INDIA

Mrs. Amrit Kaur, Minister for Health . .	6
All-India Women's Conference	6
National Council of Women in India . . .	7

7. ITALY

The National Council of Italian Women	8
8. KOREA	
Korean Women's Association of the Republic of Korea	9
9. NETHERLAND	
Freule C.M. van Asch van Wijck of the World's Y.W.C.A.	10
10. NORWAY	
The National Council of Women of Norway	10
11. SWEDEN	
International Alliance of Women	11
12. THAILAND	
Academy of Women Culture of the National Institute of Culture of Thailand	11
13. UNITED STATES	
Mrs. Charles E. Beard	11
Mrs. Franklin D. Roosevelt	12
Mrs. Elizabeth Vining	12
The American Federation of Labor	13
The American Association of University Women	13
The Associated Women of the American Farm Bureau Federation	14

The Carrie Chapman Catt Memorial Fund, Inc.	14
Congress of Industrial Organization.	15
The General Federation of Women's Clubs	15
The League of Women Voters	16
The National Federation of Business and Professional Women's Clubs, Inc.	16
The National Society, Daughters of the American Revolution	17
The United States Branch of the Associated Country Women of the World	17
The Women's National Democratic Club	17
The Women's National Republican Club, Inc.	18
II. Answer to the Messages	18
III. "Japanese Women as They are".	20
IV. List of Materials Enclosed	26

MESSAGES FROM ABROAD FOR THE THIRD WOMEN'S WEEK

1. BRAZIL

Academia Brasileira Feminina de Letras

Irmãs Japonesas

Durante a semana dedicada á Mulher Japonesa, nós as intelectuais brasileiras, falando por nossas irmãs as mulheres do Brasil, trazemos com o coração em festa, as nossas congratulações, a nossa solidariedade, a nossa simpatia e sobre tudo isso a nossa carinhosa amizade, chamando-as "QUERIDAS IRMAS"

Que importa á distância que nos separa, a raça que nos difere, o idioma que falamos tão diferente, si dentro de cada uma de nós as mulheres do mundo temos um mesmo coração, em nossos olhos as mesmas lágrimas ou em nossos lábios os mesmos sorrisos, e as mesmas dores para nos fraternizar até o infinito... que é amor sublimação do espírito.

Que esta mensagem de coração para coração, leve também os votos que fazemos pela felicidade de sua Pátria, de seus patrícios e sobretudo das crianças japonesas, que representam nós seus ideais o Japão de Amanhã.

Para a mulher japonesa despetalamos em pensamento um punhado de rosas sobre suas vidas, nos versos de uma poetisa brasileira - :

M U Ç U M É

Essa mulher minúscula - a japonesa,
de olhos de framboeza,
que andando é semelhante á borboleta
em plena evolução,
a gente poderia, se quisesse,
bem colocá-la, como estatueta,
num movel de Salão.
E como enlanguesse
quando a cismar, contempla a ventarola
do mais fino xarão !

Seu pensamento além se desenrola,
 como o excelente aroma que se evola
 dos pequeninos trevos do Japão.
 Quando entre as mangas do KIMONO caro
 de sêda prateada,
 estende as mãos morenas, pequeninas,
 que invejaria o lírio da campina
 de corola nevada...
 como que duas aves forasteiras
 ali pousaram para descansar...
 depois erguendo as azas prazenteiras,
 dêsse ninho de sêda matisada
 puzeram-se a voar.

Quem lhe conhece a pena?
 Contempla as ilusões despedaçadas,
 indiferente e muda
 na palidez amena
 das corolas fanadas
 das cerejeiras dos jardins de Buda.
 Essa mulher pequena,
 de talhe de açucena
 e de olhos de framboesa,
 tem um amor tão grande,
 um amor que se expande,
 a poderia encher a natureza !

Bem dita sejas tu, nessa excelsa grandesa.
 A pequenina e linda MULHER JAPONESA !!! "

2. CANADA

Mr. A. R. Menzies, Canadian Mission:

"I should like to take this opportunity through you to extend my own congratulations to the women of Japan for the splendid advantage they have taken of the opportunities for public service afforded them since the new Constitution was promulgated.

Yours sincerely,

A. R. Menzies
 Head of the Canadian
 Liaison Mission in Japan"

Mrs. Cairine Wilson, Senator: (Cable)

"CANADIAN WOMEN CONGRATULATE JAPANESE WOMEN
 FEEL PRIVILEGED TO GREET ONE WHO HAS DONE SO MUCH
 TO IMPROVE WOMENS STATUS SENATOR CAIRINE WILSON"

Federated Women's Institutes of Canada:

"Dear Mrs. Yamakawa,

It is with great pleasure that I send felicitations, through you, to the women of Japan, on this, their "Japanese Women's Week", when they will review what has been done by them during the past few years and lay plans for an even greater advance in the future. Speaking for the Federated Women's Institutes of Canada, I congratulate you on the magnificent work you are doing for the emancipation of your women in social, educational, political, legal and economic fields and hope that this may lead to the realization of Article XIV in your new Constitution which states; "All of the people are equal under the law and there shall be no discrimination in political, economic or social relations because of race, creed, sex, social status or family origin." This is truly a goal worthy of your efforts and we are happy that the women of Japan are progressing towards its fulfilment.

We realize that the past decade has seen remarkable changes taking place in your Country in the status of women in industry and their emergence from the level in which they had lived and worked for generations. You must be very proud of the way in which your women are marching forward together to that goal towards which the leaders have been advancing for years.

May I add that in Canada our Women's Institutes will be glad to extend the hand of friendship to

any of your countrywomen resident in this country. We will welcome them and hope they will join with us in building a bridge of understanding between our countries. Working together, as friends, we may be able to help build a world free from hunger, fear and oppression and so pave the way to peace among the Nations.

Again congratulations. May success reward your efforts.

Sincerely yours

Mrs. E.E. Morton,
President FWIC"

The National Council of Women of Canada: (Cable)
"The National Council of Women of Canada send greetings to the women of Japan and best wishes for a continuous increase of your interest and participation in the public affairs of your country."

3. CHINA

Mrs. Mayling Soong Chiang: (Cable)

"On the occasion of Japanese Women's Week, the women of Free China send their warm congratulations. Throughout the ages numerous women have made notable contributions to the advancement of humanity. But it is in co-operative efforts possible only through organization that women can expect universal and lasting effect on progress. The women of Free China, recognizing this fundamental truth, have organized the Chinese Women's Anti-Aggression League which has for its purpose the mobilization of women to further the aims of human freedom and dignity. It is our hope that our sisters in Japan should establish a similar organization to combat Communist aggression and thus be at one

with us in work and in spirit.

Mayling Soong Chiang
April 9, 1951"

4. DENMARK

The Danish National Council of Women: (Cable)

"THE DANISH NATIONAL COUNCIL OF WOMEN SENDS CONGRATULATIONS AND WISHES FOR PEACE AND HAPPINESS"

5. ENGLAND

Rt. Hon. Dr. Edith Summerskill, M.P., Minister of National Insurance:

"Dear Mrs. Yamakawa,

The achievements of the women of Japan are being followed with keen sympathy and admiration by their sisters in this country. I am glad to express, from Great Britain, our warm congratulations on the occasion of your Women's Week.

Without distinction of party, we have watched with sympathy and admiration the steady advance to full citizenship of the women of your land. We send you our greetings, in the confidence that you have an essential part to play in the recovery and prosperity of your country, and will play it worthily.

Yours sincerely,

Edith Summerskill"

6. INDIA

Mrs. Amrit Kaur, Minister for Health:

"It gives me very great pleasure on behalf of the women members of the Indian Parliament to send greetings to the women of Japan on the occasion of the Japanese Women's Week.

We live in a world which has not yet recovered from the suffering caused by the last World War. The shadow of the conflict which is raging in Korea has again cast a gloom and the future appears dark. We believe that women can by means of truth and love help greatly towards the banishment of that fear and mistrust which are man's worst enemies and which are always the precursors of war. We would like the women of the world to unite in raising their voice against war because war can never be a solution to the world's ills as violence invariably leads to greater violence. The victories of peace are always greater than those of war but there can be no peace anywhere where love does not reign. On women who are by nature and instinct the preservers of life lies a heavy responsibility which they may not shirk.

We stand for the fullest freedom of the human spirit, for political liberty for all people, for the equality of the sexes and full opportunities of service for everyone. In sending greetings to our sisters in Japan we would like to assure them of our keen interest in their welfare and in the welfare of their great country. We wish them every success in their efforts to build a new Japan and assure them of our help and collaboration in all schemes which endeavour to bring peace, happiness and light into a troubled world.

(Signed) Amrit Kaur
Minister for Health, India"

All-India Women's Conference:

"Dear Mrs. Yamakawa,
We have learned with pleasure of your proposal

to hold a Women's Week in Japan, for we believe that a country's progress lies largely in the hands of its women. The Women's Week will doubtless provide an opportunity for pressing the dynamic qualities, that have always characterised your people, into the service of your women, their betterment and fuller development.

It is a tribute to the women of the world that their interests have not been circumscribed by their own immediate problems. Even while they struggled for their total emancipation from the shackles of outworn customs, they reached out to wider issues with equal fervour, and concerned themselves with the vital questions of social justice, world peace and international goodwill. We know that the women of Japan also treasure this threefold ideal and will make their own unique contribution towards its realisation. The recent participation of your women athletes in the Asian Games in New Delhi, and their overwhelming success in the several items, were an indication of your great advancement and of the leading role that the women of your country are destined to play in the affairs of the world.

We send you our fraternal greetings and good wishes. Needless to say, we shall watch the events of the Women's Week with the deepest interest.

Sincerely yours,

(Signed) Hannah Sen
President

National Council of Women in India:

"Dear Friend,

On behalf of the National Council of Women in India, I send our heartfelt greetings to you, our sisters in Japan, on the occasion of the Japanese Women's Week, and wish you success in every walk of life.

The world has watched with admiration your achievements in the short span of 50 years. You have freed yourselves from the shackles of the old

feudal age and forged ahead to a leading position in the modern world. Today a crisis looms large before every one of us in the East and the West.

The last world war has shaken human society to its very foundations and the established habits of life and thought of the people have received a rude shock. It is now six years since the last world war and yet we are very far from peace and settled life. Everyone by now ought to realize that a victory of arms can never ensure peace--very far from it. Civilisation today is in the melting pot and values--social, economical and moral--are undergoing vital changes.

Man has to be aware all through this transition. We must search in our hearts for real enduring peace which is the flower of love and understanding. The world is crying for a re-orientation of spiritual values.

India and Japan are the proud inheritors of the Gospel of Budha and we feel our reactions would be similar. We have, therefore, full faith that our sisters in Japan will take their rightful share in becoming focuses of peace, goodwill and good neighbourliness, which women must strive to be. We feel sure that with your national sense of discipline and organization, the Women of Nippon will exercise great influence both at home and abroad in the cause of peace and goodwill.

Homage to our Sisters in the Land of Sun.

Yours sincerely,

Saraladevi Sarabai
President

7. ITALY

The National Council of Italian Women, signed,

Miss Nina Ruffini, President:

"On the occasion of the Japanese Women's Week

I extend on behalf of the National Council of Italian Women sincere congratulations wishing for a fruitful reciprocal collaboration between Japanese and Italian women."

8. KOREA

Korean Women's Association of the Republic of Korea:

"On such a significant occasion as this Japanese Women's Week, we feel honored to be given this opportunity to extend, on behalf of the women of the Republic of Korea, our heartfelt congratulations to the Japanese women who are rendering strenuous efforts to the cause of democratization and reconstruction of their country.

We cannot deny the fact that relations between Japan and Korea for the past half century was unenviable. Today, however, both Japan and Korea stand on the common road towards common cause and, we believe, that the time has come to forget the past unpleasantness and look forward to the future cooperation. Time has imposed upon our two countries, among other freedom-loving nations, the great and sacred task of achieving democracy for the safeguard of peace and freedom. This we are now struggling for at the highest price ever paid by a country in modern history.

We are thankful and happy to see Japanese women gradually taking up important roles in various fields as they strive for the elevation of their social standing. It is our sincere wish that the women of Japan make themselves a cornerstone in the great edifice of democracy that is being rapidly built. We have a firm belief that the women of Japan will make a notable contribution towards making their country a beautiful member of the family of democratic nations of the world.

Korean Women's Association
of the Republic of Korea"

9. NETHERLAND

Freule C.M. van Asch van Wijck of the World's
Y.W.C.A.

"Dear Mrs. Yamakawa,

Remembering with joy my visit to Japan as member World's Y.W.C.A. delegation in November 1947, I send you from Holland best wishes for your Japanese Women's Week.

May your efforts inspire many Japanese women to take an increasing share through home and public life in building the future of your nation on foundations of spiritual values and loyalty to high standards of righteousness and disinterested service. This contribution of the women of your country towards a peaceful world in which mutual understanding and readiness to help govern the relations between nations will be increasingly significant.

Sincerely yours,

C.M. van Asch van Wijck"

10. NORWAY

The National Council of Women of Norway:

"Dear Madam,

The National Council of Women of Norway wants to offer you the most heartiest congratulations on the occasion of the Japanese Women's Week.

The National Council of Women of Norway sends the best greetings and good wishes for the continuing success of the most important work rendered by the women of Japan.

Yours sincerely,

(Signed) Claudia Olsen
President

11. SWEDEN

International Alliance of Women: (Cable)

"INTERNATIONAL ALLIANCE OF WOMEN WISHES ALL
SUCCESS IN YOUR GREAT MISSION HANNA RYDH PRESIDENT"

12. THAILAND

Academy of Women Culture of the National

Institute of Culture of Thailand: (Cable)

"On the occasion of the Japanese Women's Week, we convey our whole-hearted congratulations to you upon the works achieved by the Japanese Women since they have been granted the right of suffrage according to Democratic System. We express sincere hope that the services thus rendered by the Japanese Women to the Nation under Democratic Regime will greatly contribute to the advancement of women's progress and to the prosperity of Japan."

13. UNITED STATES

Mrs. Charles E. Beard:

"Having learned, in the course of more than three years of my intensive study, about the force of Japanese women in helping to shape all the former patterns of Japanese culture, I am not surprised that you are now tackling democracy with valor and persistence. This is in the cards for you and you seem to be playing them well. I am proud of you.

Moreover, the impression your minds, characters, and courage have been making on many prominent American men who have been recently in Japan as of-

ficials and observers, is also so frankly one of pride in you that they proclaim it in our press.

It takes peculiar intelligence and grit to make democracy work. Try never to become discouraged."

Mrs. Franklin D. Roosevelt:

"On the fifth anniversary of Japanese women's suffrage I would like to send a message of good wishes and congratulations to the women on the part that they are playing in their country."

Mrs. Elizabeth Vining:

"To the women of Japan, greetings and congratulations.

This fifth anniversary of women's suffrage in Japan is a milestone at which it is well to pause and look both backward and forward.

You have behind you five years of opportunity and achievement. You have demonstrated before the world your ability to shoulder the responsibilities of suffrage and of office and your willingness to make room in already crowded lives for the new burdens that political maturity entails. Having lived among you for four of those five years, I know the especial difficulties that beset you because of postwar conditions, economic and family problems, and the psychological factors due to the break with the traditional concepts of woman's role in the national life, and to my admiration for your achievement is added sympathetic realization of the cost at which it has been bought.

Looking backward I think we should also remember and pay tribute to the band of courageous and resourceful Japanese women who struggled before the war in the cause of women's suffrage. Their patient and intelligent, though apparently unrewarded, efforts prepared you when the time came to step forward and grasp your opportunity with assurance and purpose.

Looking forward we see times of stress and danger, with ever greater responsibilities and

heavier tasks. Thousands of young girls coming of age each year must be taught to take up the duty of voting seriously and actively, to find out the record and character of the candidates, to study the issues that are at stake, and to vote with intelligence as well as independence.

I would remind you of the words of John P. Curran in 1790: 'It is the common fate of the indolent to see their rights become a prey to the active. The condition upon which God has given liberty to man is eternal vigilance.'

Anthropologists tell us that civilizations where women's influence is strong are peaceful ones. Let us free women of the world stand together, giving our strength and our determination to developing a peaceful world where every child can have a free and happy growth to his fullest capacities of mind, body, and spirit, and where nations can cooperate in creating social and economic justice for all."

The American Federation of Labor, signed,

Mr. William Green, President:

"Please convey congratulations of the American Federation of Labor to women of Japan on occasion of fifth anniversary of their suffrage. All who are devoted to the cause of freedom and democracy hail the response of Japanese women to rights now accorded them. This is most heartening to all who are interested in the future of Japan and the Far East."

The American Association of University Women,

signed, Miss Helen D. Bragdon, general director:

"I hope that you will convey to the women of Japan our greetings and tell them of our interest in their work and our deep respect for the way in which they have accepted the challenges of the new

issues laid before them since 1945, not only in their country but also in the world.

I particularly welcome the opportunity on behalf of the Association to send this greeting to the women of Japan on the fifth anniversary of the granting to them of the franchise, because we have so thoroughly enjoyed the contact with the Japanese Association of University Women and with the Japanese women who have visited us while they were in Washington on official business.

This affords me an occasion to express our interest on a wider scale than we have been able to do in the past. We look forward to a continuing and expanding relationship with the women in Japan with every confidence that it will grow and enrich our lives, and we hope that we may be permitted in some way to share their experience and to assist them in any way we can."

The Associated Women of the American Farm

Bureau Federation, signed, Mrs. Raymond

Sayre, president:

"On behalf of the Associated Women of the American Farm Bureau Federation, I wish to extend congratulations to the Japanese women during their observance of the fifth anniversary of women's suffrage."

The Carrie Chapman Catt Memorial Fund, Inc.:

"The directors of the Carrie Chapman Catt Memorial Fund send to their sisters in Japan their heartiest congratulations on the fifth anniversary of their having exercised their newly-won franchise in so inspiring and constructive a way."

Congress of Industrial Organizations, signed,
Mr. Philip Murray, president:

"To the Women of Japan:

Please accept my sincere congratulations on the celebration of Women's Week.

The great influence of women throughout the ages through their gentle and kindly spirit in the home will never cease, but in our modern society the contribution of women in all fields of human endeavor deserves especial recognition and encouragement.

It gives me particular pleasure to know that the trade union women of Japan are participating in the celebration of Women's Week. The more than one million women union members in Japan have a great opportunity to help in bringing peace, freedom, and prosperity to a war-torn and war-threatened world.

I am asking Miss Gladys Dickason, Vice President of the Amalgamated Clothing Workers of America, one of the founding unions of the C.I.O., and who is presently in Japan, to convey in person my good wishes to the people of Japan during Women's Week if she should have the opportunity.

May the celebration of Women's Week in 1951 stimulate a program of broad activity and inaugurate a year of progress and success in encouraging all democratic organizations in Japan."

The General Federation of Women's Clubs,

signed, Mrs. Hiram Cole Houghton, President:

"Warm greetings to the women of Japan from the General Federation of Women's Clubs. We are proud of the splendid contribution you are making to the progress of your country through exercise of the franchise and active participation in civic and political life. In the cause of freedom and peace we number you among our strongest allies. With admiration and respect."

The League of Women Voters, signed, Mrs. John G. Lee, president:

"The League of Women Voters of the United States greets the women of Japan on this memorable anniversary. During these evil years you have enriched the political life of your country and contributed in large measure to the development of democratic processes. Your participation in government is now firmly established and will be increased as more and more women become politically active. As president of the League of Women Voters I send you the wishes of this organization for your continued success."

The National Federation of Business and Professional Women's Clubs, Inc., signed, Miss Sarah T. Hughes, president:

"The National Federation of Business and Professional Women, made up of 165,000 employed women organized in clubs in 2,800 communities throughout the United States, Hawaii and Alaska, send congratulations to the women of Japan on the fifth anniversary of Japanese women's suffrage.

Our Federation, a member of the International Federation of Business and Professional Women, with clubs in twenty countries, was organized to advance the status of women and promote understanding between the business and professional women of different countries. The splendid progress the Japanese women have made, in the use of the right to vote and other rights granted under the New Constitution, has been watched with great satisfaction. We feel that participation of Japanese women in public affairs has been a major factor in the development of the democratic ideal in Japan.

We send best wishes for your program of observance of the anniversary of women's suffrage in Japan and for the continued success of your efforts to advance the position of Japanese women."

The National Society, Daughters of the American Revolution, signed, Mrs. James B. Patton, president general:

"Greetings to the women of Japan. The National Society, Daughters of the American Revolution, send best wishes to the women of Japan for Women's Week, April 10 to 16.

Deeds of women can and do result in national accomplishment over the years. I extend to you, personally, and on behalf of the National Society, Daughters of the American Revolution, congratulations and best wishes in your newly-acquired fields of endeavor. Sincerely yours."

The United States Branch of the Associated Country Women of the World, signed, Mrs. George Apperson, chairman:

"To the women of Japan, our congratulations upon your achievements during the past five years, and our best wishes for the future success of your work."

The Women's National Democratic Club, signed, Mrs. Fred W. Morrison, president:

"To the women of Japan: On behalf of the Women's National Democratic Club I wish to extend greetings and congratulations to all of the Japanese women who have enthusiastically responded to the obligation and privilege of voting and who are being honored during Women's Week in Japan as citizens who are helping to build a freedom-loving nation.

May this fifth anniversary of suffrage for

Japanese women be marked by their determination to use this privilege and this obligation of voting to the end that Japan will remain a true democracy throughout all of the years to come."

The Women's National Republican Club, Inc.,

signed, Mrs. Ira A. Campbell, president:

"Will you please transmit to the appropriate persons in Japan a congratulatory message from the Women's National Republican Club, Inc., on the fifth anniversary of Japanese women's suffrage? Thank you for giving us the opportunity to participate in this good-will message."

ANSWER TO THE MESSAGE

"Dear _____

Your message expressing the goodwill of your people through a congratulatory statement during our Women's Week was heartily appreciated by all the women of Japan as well as the Women's and Minors' Bureau of the Labor Ministry. It is a great pleasure for me to send you this expression of our deep gratitude on behalf of Japanese women. In the enclosed materials, we have tried in some small measure to give you a picture of the whole program of Women's Week and the current status of Japanese women who have just celebrated the fifth anniversary of women's suffrage.

As a part of the program, the Bureau sponsored an exhibit at the National Diet Library showing Japanese women's progress in various fields since Meiji Restoration (1867) when the feudal Tokugawa Regime was abolished. We displayed your message in a special corner at this exhibit with more than

a dozen messages from various other countries.

The exhibition had such a strong appeal that the place was crowded with over 2,000 people every day, including such outstanding visitors as Diet members, renowned scholars, writers, critics, government officials and many foreigners in both their official and private capacity.

We enclose herewith some materials concerning Women's Week which were published by our Bureau and may be of interest to you. If such a thing is possible, we would greatly appreciate the exchange of materials between your office and ours, so that we may become better acquainted with the progress and problems of women in other countries.

A thousand thanks again for the message and with these thanks go our greetings and deepest respect to the women of your country.

Yours sincerely,

(Signed) Kikue Yamakawa
Chief, Women's and Minors'
Bureau, Labor Ministry,
Japan"

JAPANESE WOMEN AS THEY ARE

30 April 1951

Three weeks ago, from 10 to 16 April, Japanese women celebrated the fifth anniversary of Women's Suffrage. Sparked by the Women's and Minors' Bureau of the Labor Ministry, organizations and agencies throughout the country attempted to examine the question of citizenship and to show how it may stem from local practical undertakings designed to improve first the homes of the people in a community, then the community itself, the prefecture, the nation, and the world. The application of the program was unpretentious. It was designed to reach women of comparatively little educational background, mothers generally too busy for events outside the home, and those who are apt to think only in terms of their own personal economic advancement. It was intended to make clear that each of us may make a personal contribution to world betterment.

Samples of publications enclosed herewith together with their translations will give you some small idea of how the program developed. One of these explains: "As Japan entered the group of modern states in a comparatively recent stage of world history she had neither the time nor the politico-economic conditions which foster the development of independent citizens. Therefore the modern Japan included feudalistic patterns under cover of a highly developed capitalistic economy. This was especially true of women where the restrictions were doubly strong because of the deep-rooted family system. A woman was recognized as a daughter of "A" House or "B" House and scarcely had any connection with society at large. Despite commendable personal accomplishments in womanly etiquette and learning, women lacked an understanding of the true meaning of citizenship" The final aim of Women's Week then was to stimulate women's interest in matters outside their families.

To promote the program, the Women's and Minors' Bureau sponsored a national conference which examined the meaning of citizenship and developed practical suggestions for the implementation of the idea. This two-day conference was participated in by outstanding Japanese scholars, critics, labor, education, and farm leaders. The results will be distributed throughout the country. The Bureau also sponsored the following:

1. An exhibit in the National Library on the history of women's progress in Japan since the latter half of the nineteenth century which succeeded in gathering together in one place precious privately owned documents heretofore unknown or forgotten by the public. Tours to this exhibit were arranged for women's organizations, schools, and social organizations of all types.
2. A rally of women workers in the national capital at which a visiting CIO official from the United States spoke on "Civic Responsibilities of Women Workers."
3. The publication and distribution of information materials such as posters, leaflets, and pamphlets which inspired local programs throughout the country.

Aside from the government sponsored programs, organizations, newspapers, radio, and all other types of mass media promoted colorful programs of their own.

This is only one example of the citizenship education programs which have fortified the women's program in Japan. They are a contributing factor and not the answer to the progress of women indicated in the following.

In the three general elections since women acquired voting privileges, a total of 66 women have been elected to the Japanese Diet. Of this number, 24 are presently in office, 12 in the

lower house and 12 in the upper. These 24 women constitute 3.4% of the total membership. Sixty-four percent of the eligible women voters, as against 71% of the men, cast their ballots in these elections.

This activity of the new voters results largely from the fact that primary school education has been generally available to Japanese women since 1877; and junior secondary education since 1921. While the two sexes had entirely different courses of study, illiteracy was not the factor it has been in countries where women vote before obtaining education rights.

This basic education, however inadequate it might have been, resulted from convictions of many liberal men and women, who participated in Japan's first contacts with the West, that equality of men and women are essential to democracy. However, this idea of a few intellectuals was not strong enough to win general acceptance and a move to secure the franchise for women was defeated when the Japanese military became ascendant in 1931.

During the period that followed, some women succeeded in acquiring higher education and in securing professional jobs, despite strong traditional discrimination. Moreover, many women, especially young women, replaced men in factories, on farms, and at home. They developed confidence and some knowledge of responsibilities assumed by competent citizens. This new status represented progress which they wanted to further after the war ended.

Thus the franchise for women granted under the new Constitution is firmly grounded in the past. It was welcomed with enthusiasm by a majority of the population prepared for changes through the shock of the war's end.

This same interest characterized the people's reaction to various legislative reforms presaged by the promulgation of the new Constitution in 1946.

This Constitution protected fundamental human rights and established the legal basis for equality of the sexes. Implementing laws included:

a. The new Civil Code which granted women full civil rights, freedom of choice in marriage, equal property rights, and equal rights to guardianship of their children.

b. The Fundamental Law of Education which extended compulsory education from six to nine years and provided an opportunity for co-education in secondary schools and universities.

c. The Labor Standards Law which defined the equal rights of women workers; established the principle of equal pay for equal work; such protective legislation as maternity leave, menstrual leave, nursing hours for mothers, regulations regarding hazardous and midnight work; prohibited the slavish dormitory system which heretofore resulted in compulsory labor, especially in the textile industry which employs the majority of women workers; and made dormitory self-government mandatory.

Women workers, excluding those in agriculture, now total 3,500,000, approximating war-time employment figures. In the rapid development of the postwar labor movement more than half of these women affiliated with unions. At the 1948 peak, several were elected officers. The number of women in business, service agencies, and the government has shown a corresponding development. Several hold highly responsible positions.

Administrative reform has kept pace with legislative changes. The Women's and Minors' Bureau was established in September 1947 in the new Ministry of Labor. This Bureau coordinates all problems and activities concerning women, performs research and develops information and education programs related to working women and

minors, as well as housewives, farm women, and workers' dependents. It is headed and staffed largely by women.

To deal with the tremendous problem of arousing farm women to some realization of their new rights and responsibilities and to improve the primitive conditions of Japanese farms, a Home Demonstration Section was established in the Ministry of Agriculture and Forestry, on November 1, 1948. Approximately 700 agents administer this program throughout Japan. Their head is a woman trained in home economics and teaching procedures.

The Ministry of Education likewise has established a special unit in its administrative structure to promote women's civil education. Nearly all local boards of education have similar units with similar responsibilities. Thirty-five of the 287 members of these boards are women.

Women's readiness and eagerness to accept the new democracy in Japan is exemplified best by organizations which they are forming. Most of these women had one previous experience with women's organizations. They had been members of Dai Nippon Fujin Kai, the war-time government controlled national organization. This organization was disbanded at the war's end and women began a lengthy series of orientation meetings through which they attempted to learn parliamentary procedure and techniques for developing their own programs in their own organizations. Some 6,000,000 women are now members of about 10,000 organizations, most of which are regional groups formed on county or prefectural basis. A few national and local organizations grounded on special interests of professional persons are exceptions. These include organizations concerned with non-partisan political education for women, a university women's association, and a housewives' league concerned with the cost and supply of food.

As exemplified by the Women's Week program cited above information programs regarding women's responsibilities, both specific and general, under

the new Constitution are promoted throughout the year by all agencies and organizations mentioned.

On the darker side of the picture, is the fact that the past tradition of cultural, economic, industrial and educational centralization still has a strong hold on the people despite extensive efforts to establish local autonomy. Leadership is understandably weak in rural areas. While 3.4% of the members of the national Diet are women, they constitute only 0.4% of the local assemblies.

As in all countries, the rural people, comprising more than 50% of the population, are slow to accept new ideas. The Land Reform Act severed the feudalistic relationship between land-owners and tenants but could not solve the problem of a little land for a great many people. About 40% of the farmers cultivate one acre or less of farm land. The resultant economic problems have caused farmers to attempt reviving the buying or selling of children, despite legal restraints. In 1949, the Labor Ministry apprehended 929 such cases, 712 of which were girls. The victims in rural areas generally are employed, through long term loans to their families, as farm workers or servants. If taken to urban areas, they serve as waitresses, often a polite term for prostitutes.

Farming in Japan, like that of many other unmechanized countries, depends on the manual labor of family members. It helps thus to maintain large-sized families, the base of the old family system, and the source of cheap labor.

During the one-year period from 1949-50 a decline in labor union membership resulted in some loss of power and a feeling among workers that under prevailing economic and social conditions they have nothing to gain from membership in unions. It is also perhaps true that in the initial upsurge in union membership, women joined without sufficiently understanding the significance of their actions. Continuing educational programs, strict enforcement of laws, and adequate supervision of working conditions are necessary for these women

to develop as modern workers.

The reaction among women workers has its counterpart in the very large women's organizations where the size of membership is conducive to control by a few leaders. This tendency, however, is strongly resisted by young women. Here, too, continuous education is necessary, if the roots of democracy are to go deep into the national being.

Japanese women realize that their problems are common to most countries, and that legislation now on their books is still a dream for many.

List of Materials Enclosed

1. Poster For the Women's Week
2. "Kabeshimbun" for the Women's Week
3. Leaflet No.23 "Let's Become Women Useful to the Community"
4. Pamphlet No.10 "This is Why We Formed Our Club"
5. Pamphlet, "Handbook for Women's Civic Responsibility"
6. Pamphlet, "Statistical Materials Relating to Japanese Women, 1951"